

第1回旭川駅周辺かわまちづくり懇談会 議事要旨

日 時：令和4年5月31日(火) 18:30～20:30

場 所：旭川市職員会館3階6号室

出席者：10名（出席者名簿のとおり）

議 題：かわまちづくりの概要，旭川駅周辺の立地特性と河川の現状，水辺とまちづくりの基本方針，ソフト施策・ハード施策に関する検討，今後の進め方

1. 議事

(1) かわまちづくりについて

事務局(旭川市)から，かわまちづくりの概要等の説明を行い，出席者から以下の発言があった。

【参加者A】

旭川市として，かわまちづくりを通して観光を盛り上げていく考えだと思うが，ターゲットは外国人，道外，道内など，どの層を考えているのか。

【事務局(旭川市)】

かわまちづくりの目的は観光面だけではないが，市民や観光客，修学旅行生等も対象とするイメージである。今後の議論の中で色々なご意見を出していただきたい。

(2) 旭川駅周辺の立地特性と河川の現状について

(3) 水辺とまちづくりの基本方針に関する検討について

(4) ソフト施策・ハード施策に関する検討について

事務局(旭川市)から旭川駅周辺の立地特性と河川の現状，水辺とまちづくりの基本方針(案)，ソフト・ハード施策(案)等の説明を行うとともに，参加者Cから川下り研究所の資料に関する説明を行い，参加者から以下の発言があった。

【参加者B】

牛朱別川を經由して旭山動物園までのサイクリングコースが検討されているが，牛朱別川上流には人気のガーデンがあり，距離はあるものの上りが少なく走りやすいので，観光コースとして加えたら良いと思う。

また，土地勘がないサイクリング利用者が，川沿いから旭川市街地に入ってくるためのガイド(案内)があると良い。自転車好きの人は，現在通行止めとなっている神居古潭のサイクリングロードをイメージして来るので，現地に案内がないと分かりにくいので対応を考えた方が良い。

【進行役】

魅力的な川沿いになれば，たくさんの人が来るようになるので，わかりやすい案内とするのが望ましい。

【参加者C】

全国各地で実施されているかわまちづくりにおいて、維持管理の難しさから十分に実施できていない自治体もあるので、慎重に検討した方が良い。ツインハーブ橋からラフティングなどを行う際、現状では護岸を降りているが、カヌーやボートが乗降できるような施設があると良い。

また、JR旭川駅南口の近くにある忠別川にカヌーポートのような施設を作り、駅からそのまま忠別川に行けるようなエリアがあると良い。

以前は神楽岡公園の駐車場から川が見渡せていたが、今は樹木に覆われて見えない。河原の良好な環境を創出することで、人が集まるものと考えており、忠別川がモデル地域になると良い。かわまちづくりの管理・運営については、旭川市、民間業者、国が情報共有し、資金を投入し観光で人を集められるような方法が良い。

【参加者D】

旭川駅の南側からツインハーブ橋までの間で利用できる施設や資源が多いと感じる。何かできることがあればお手伝いしたい。川下り研究所の活動は独自のコミュニティの中で有志が集まって行っているのか、又は、ファンドレイジング（非営利活動の基金集め）をもとに行っているのか。実際の活動に際し、具体的な障壁などはあるのか。

【参加者C】

ミズベリング、観光コンベンション協会、大雪ネイチャーガイドの方、キャンプや川下りをしている方、旭川市地域振興課、北海道開発局等の方が集まり、様々な分野の方を招待し勉強会を行っている。以前JICAの方に来ていただいた際に、川は積極的に作り変えていけるのだということを伺い、その発想からイメージをまとめたところである。障壁等はないが民間の知恵やノウハウを活用して管理するのが理想である。

忠別川に注目しているのは、JR旭川駅の南側で川下りができ、川から2分くらいで駅に行けるという全国でも珍しい地域であるという理由からである。ロケーションも良く、木がうっそうとし堤防も見えない、ここは本当に旭川なのかというところを下って、駅が見えるところから突然都会的な風景が見えてとても面白い。

【進行役】

ひとつの完成形と言えるが、こうした川を軸とした観光コースのようなルートを作ることのデメリットを感じることはあるか。

【参加者C】

デメリットは人が来ることによるゴミの問題であり、それらをどのように管理するのか。イベント的なゴミ拾いという方法もある。

【参加者E】

駅前でのアクティビティ等だけではなく、忠別川の上流にあるツインハーブ橋で拠点になる施設やイベントなど人が集まるような仕組みがあると、駅から出発し、駅に戻るというひとつのパ

ッページになるように感じる。ツインハーブ橋に拠点のような施設などがあることで帰りはバスやタクシーに乗るなど、もっと身近に感じられるような参加方法があると良い。また、誰がターゲットになるのか気になるところである。地域資源を大切にすることや地域資源を活用する場合、市外の方ではなく地域の方に愛着も持ってもらい、地域の人に多く利用してもらえるような方策があると良い。

【進行役】

旭川市民に「旭川にはこんな楽しいところがある」と言ってもらえるエリアになれば良いと考えている。注目される施設を作るよりも、家族で利用できるような川の整備が良い。例えば、神楽岡公園での音楽ライブやキッチンカーの出店、河原での憩いといった風景があれば、必ず人は少しずつ寄ってくると思う。

【参加者 D】

公共空間ではあるが川沿いを利用しているときに近所の人から苦情が来る場合がある。大人が河原でバーベキューしても特に苦情もないが、子どもたちだけだと苦情が出るのは可哀想なので、何かできれことはないのかと考えている。

【参加者 F】

近文駅周辺から洪水が起きる可能性がある聞いたことがある。河床掘削の要望があるなど以前、床下浸水被害のあった忠和地区の住民がとても心配しているといった話を伺ったことがある。

河川敷には、様々な公園があり、明るくて見通しやすく歩きやすい、自転車に乗っても心地良い空間にはなっているが、洪水などの安全面に不安がある。防災面も考慮した内容も必要ではないか。

【事務局(旭川開発建設部)】

河川整備計画に基づいて、安全面については毎年河川整備事業を進めているところである。全国で温暖化を踏まえたシミュレーションを行っており、降水量が増え、災害頻度が上昇する。温暖化に向けて整備計画等の見直しを行っており、どのような施設が必要なのか、河道断面がどのくらいの大きさになるのか検討を進めているほか、自治体や関係省庁と連携して流域治水を進めている。近年、大きく被災しておらず、治水効果は発揮されていると思う。

【参加者 G】

外来種については、人間の往来や物資の移動で自然に入ってくるのも多いのではないかと感じる。

通常の河川空間利用について旭川は駅のすぐそばに川があって珍しいので、河川を利用したイベントあるいは環境教育に力を入れても良い。ハード面については、子どもたちが安全に河川を利用できるような施設となることを期待している。

【進行役】

子どもたちの安全という視点も必要である。

【参加者 H】

大雪カムイミントラDMOでは、広域観光として着地型観光の商品づくりを行っている。駅のすぐそばに川があるというのは他の街にはない魅力であり、そのような地域特性を活かしながら、様々な商品を開発をしていきたいと考えている。

6月18日から開催される「旭川デザインウィーク」では、体験型アクティビティとして、あさひかわ北彩都ガーデンにある鏡池で「まちなかカヌー」というイベント企画しているが、SUPやボートから落ちて水質的に問題ないのか伺いたい。

【事務局(旭川市)】

川の水を鏡池に入れているので、水質的には問題ない。

【参加者 I】

(参加者Cが提供した)資料で、忠別川取水堰の「魚道改修」とあるが、魚道はどこにあるのか。

【事務局(旭川開発建設部)】

元々、魚道はなかったが、サケやマスが遡上できない状況を改善し、上流に遡上できるよう魚道を設置した。取水堰の施設管理者である旭川市水道局の協力も得ながら「かわまちづくり」という大きなプロジェクトを進めていくことが環境にも良いと思う。

【参加者 B】

旭川では熊の出没情報が相次ぎ、美瑛川では電気柵が設置された。忠別川も木を切るなど見通しが良くなったが、人間の好む好まざるに関わらず、野生動物は侵入してきているので、共存を考えていかないといけない。

(5) 今後の進め方について

事務局(旭川市)から今後の懇談会の進め方等に関する説明を行い、参加者から以下の発言があった。

【進行役】

かわまちづくり計画が登録されないということはあるのか。

【事務局(旭川開発建設部)】

かわまちづくり計画については、資料P6に示す事項が審査のポイントになる。整理が不十分な項目については、再度整理し説明する必要がある。現在、全国244箇所でかわまちづくりが進んでいる状況であるが、駅の南側に川があるJR旭川駅を拠点とすることや、民間参入も可能であるという状況が整っているので、皆さんからご意見いただきながら、かわまちづくり計画を練り上げていけば問題なく登録できると考えている。

【進行役】

先程、運営体制や民間を活用することが大事であるという意見があったが、この懇談会で議論したのは良いけれど、何かできた後の運営がうまくいかないということは避けたいので、最終的には皆さんから運営体制のイメージ等のご意見をいただきたいと思う。

【参加者 C】

民間が参入するためには、ガイドや色々なアクティビティの育成等が必要となる。育成には費用がかかるので、例えば、地域おこし協力隊などで、将来、アクティビティを事業化したいという人材を、旭川市が3年間支援し、卒業した時に事業化してガイドになれるというような仕組みも、持続可能な育成としては良い方法である。

事業のスタートも大事であり、冬をどうするかが課題である。冬のアクティビティを実施することができれば、通年で運営できるように協力したい気持ちはある。

【参加者 I】

観光コンベンション協会では、冬期間、歩くスキーなどのレンタルを行っている。最近では冬のファットバイク体験のため、鏡池周辺をコースとして使用した。新型コロナウイルスの影響から利用は少なかったが、これから少しずつ冬のアクティビティなども用意して、体験メニューを整えていきたい。

【進行役】

色々な考えを持ち寄ることによって、かわまちづくり計画がより良いものになっていくと思うので、色々な意見を出していただきたい。

【事務局(旭川市)】

本日いただいたご意見については、事務局にて計画内容への反映について検討し、次回の懇談会で提示させていただく。次回の懇談会までに意見等あれば、事務局に随時ご連絡いただきたい。

以上